

10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
蜜蜂や花の秘密を傷つけず	赤本は何笈の重さ、春近し	口三歩はずしり重き余寒がね	白魚や水に神経透けてをり	夕暮れは道草はかり紫雲莫道	ぼろぼろの母の歳時記目脚伸ぶ	田おこしのびと目羊里の敵の波	その先は光が闇が卒業す	退職の二字を楷書に下萌ゆる	ママ千かりのママ嫩爽と春光に

選句用紙

選者名 シャボン

特	6	5	4	3	2	1
春北可伊賀と甲賀の分かれ道	吾平は何婆の重さ、春近し	ほろほろの母の歳時記日脚伸ば	地層より微弱陣痛つくつくし	S P R I N G h a s c o m e ! 朝一番の英会話	ハイハイのこの子にワール春をさぐ	鏡の目に映るトロリと春の風

春

鏡

母

地

春

子

風

選句用紙

選者名

二 鼎

1	地層より微弱陣痛フクつくし
2	鶉鳴に山羊が応へて山笑ひ
3	真砂女忍 <small>あか</small> や上り <small>あま</small> 櫃 <small>かま</small> に割 <small>あ</small> 真 <small>ま</small> 着
4	お <small>お</small> い <small>い</small> で <small>で</small> やす <small>やす</small> 祇園白川 <small>あ</small> 火 <small>か</small> の <small>の</small> 宴 <small>えん</small>
5	そよ風を目で追 <small>お</small> つ <small>つ</small> 先 <small>あ</small> に <small>に</small> 山笑 <small>あ</small> ひ <small>ひ</small>
6	赤本は付 <small>ひ</small> 箋 <small>せん</small> の重 <small>あ</small> さ <small>さ</small> 春 <small>あ</small> 近 <small>き</small> し
(特)	奥土佐也脱藩 <small>あ</small> の <small>の</small> 闇 <small>あ</small> 山笑 <small>あ</small> ひ <small>ひ</small> 小

選句用紙

選者名

真一

特	6	5	4	3	2	1
	春一番彼女の拒絶純度100	啓蟄や甲羅 <small>まろ</small> 弱 <small>まろ</small> やかだんごむし	斑雪眺め名物蕎麦と酒	お松明残像残し闇に消ゆ	一雨に時は進みて零れ梅	鶏鳴に小羊が心へて小笑ふ

選句用紙

選者名 近藤和卓

特	6	5	4	3	2	1
	啓口蟻や日毎に埋まる予定表	亀鳴くや歩みゆるめ午後長し	無 <small>キ</small> 寺の面影消えし仙の座	田おこしのひと目半里の畝の波	帰郷してまず見る筑波山笑ふ	ぼろぼろの母の歳時記日脚伸ぶ
						蜜蜂や花の秘密を傷つけず

選句用紙

選者名

山本わこ

特	6	5	4	3	2	1
	春愁心やまだ青春の檻の中	遠き目の母の傍ら梅ふふゐ	黄金糖げに美しき二月尽	夕暮れは道草ばかり此糸 <small>け</small> 雲 <small>ん</small> 英 <small>け</small> 道 <small>ち</small>	パンプスが黄色く咲きぬミモザの日	深山蜂や花の秘密を傷つけず

緋あか種ねと雲のギャロツプ山笑やまうわらう

選句用紙

選者名

菜、光

特	6	5	4	3	2	1
	鶯や梅のほつ枝に香を揺らす	掬り取る紅の際立つ落椿	朝刊の匂ひを纏 <small>まと</small> ひ風光る	啓 <small>あけ</small> 執 <small>と</small> 虫や目毎に埋まる予定表	田おこしのひと目半里の畝の破	大 <small>たい</small> 強 <small>じょう</small> 旗 <small>はた</small> はためく捲山笑ふ
						素焼き皿並べ弥生の日差し濃き

選句用紙

選者名 白井桃紅

1	露天風呂春陽の中に子のお尻
2	山笑ふでいだらぼっちゃの膝の上
3	手と足もなきはまぐりの内裏雛
4	鶏鳴に山羊が応へて山笑ふ
5	春シヨル平城 ^{へいじょう} 人の鞠 ^{まり} の音
6	やりきった今日を見送る黄水仙
特	啓 ^{あけ} 執虫や日毎に埋まる予定表

選句用紙

選者名 米田よし

特	6	5	4	3	2	1
高瀬川龍馬 跳びのる春の舟	子どもは パニツ連発山笑ふ	黄金糖 けに美しき二月尽	素焼き 皿並べは 弥生の日 差し濃き	手も足も なきはま ぐりの内 裏雅	父母の眠る 筑波の山 笑ふ	ゴミ出しの 薄着奥様 風光る

選句用紙

選者名

宮本三穂

1	露天園宮春陽の中の子のお房
2	鐘の音を縫うて舞うなりのお松明
3	街の灯の影絵縫う成す内裏びたの
4	髪削りお十不馬力お山笑う
5	真砂お日記をとり櫃に割は着
6	不器用に季節を舞る松葉蟹
特	子どももらおんべいッ連ぶお山笑ふ

選句用紙

選者名

名陽

特	6	5	4	3	2	1
大魚 <small>たいりやう</small> 旗 <small>ぼた</small> けためく港山笑ふ、	素焼 <small>すやき</small> 皿 <small>しら</small> 並べ 弥生 <small>やよい</small> の日差し濃 <small>こ</small> きく	無 <small>む</small> き寺 <small>てら</small> の面影 <small>おもかげ</small> 消えて 仏 <small>ぶつ</small> の座 <small>ざ</small>	飯 <small>い</small> 盒 <small>ぼんごう</small> のおこげよそひて 山笑ふ、	父 <small>ちち</small> 母 <small>はは</small> の眠 <small>ね</small> る 筑波 <small>つくは</small> の山笑ふ、	中空 <small>ちゆうくう</small> に月 <small>つき</small> あり 若草山笑ふ、	真砂 <small>まさ</small> 女 <small>にょ</small> 忌 <small>い</small> や上 <small>かみ</small> り 櫃 <small>かま</small> に割烹 <small>わくわく</small> 着 <small>き</small>

R8 3/8

南柯

選句用紙

選者名 舟化山

特	6	5	4	3	2	1
春日ニコレ平城人の越の山	その先舟一光不問問の卒業業よ	秋之秋中一廿日毎毎に煙まゝるこゝ定まら	窓心ひとつ好き一戸建山笑ふ	夫のやしあまたは白雲の林の中	におかたにまゑる法事かしがた	つらかりのささ風と春日風

選句用紙

選者名 上室泰千

1	県道をハレーリーの列山笑ふ
2	赤本は付箋の重さ春日近し
3	駅弁を食らふ車窓に山笑ふ
4	お松明残像残し闇に消ゆ
5	京言葉ちよと外して春日きびす
6	春旅の列車に広がるキヤハハハ
特	山笑ふ四百段の石階段

選句用紙

選者名 上田秋霜

1	真砂女志 <small>かき</small> や上り <small>かき</small> 櫃 <small>かき</small> に割烹着
2	啓蟄や埴輪の馬は目も伏せし
3	べランダに下着ひらひら春の風
4	朝刊の匂 <small>ま</small> ひを <small>まと</small> 纏 <small>まと</small> ひ風光る
5	果道をハリレ <small>り</small> の列山笑ふ
6	飯盒 <small>はんごう</small> のおこげよそひて山笑ふ
(特)	隠沼 <small>いんぬま</small> の水を濃くせり蛙の子

選句用紙

選者名

関洋子

特	6	5	4	3	2	1
	にぎやかなに終える法事や山笑ふ	雨路天風呂春陽の中に子のお尻	啓口蟄や埴輪の馬は目を伏せて	緑摘む松に庭師の鋏音	掬い取る紅 <small>あか</small> の際立つ落椿	鶏鳴に山羊が成へて山笑ふ

退職の二字を楷書に下サ萌ゆる

選句用紙

選者名 光弥

特	6	5	4	3	2	1	
	啓 口 執 史 や 埴 輪 の 馬 は 目 を 伏 せ て	素 焼 き 皿 並 べ 弥 生 の 日 差 し 濃 き	所 在 な く 散 じ る 消 し か す 暮 遅 し	飯 盒 の お こ げ よ そ ひ て 山 竹 笑 ふ	春 彼 岸 仏 壇 ス イ ー ツ ち い つ ま む	奥 土 佐 や 脱 藩 の 關 山 笑 ふ	マ マ チャ リ の マ マ の 颯 爽 春 光 に

選句用紙

選者名 ひろし

特	6	5	4	3	2	1
	啓蟄や日毎に埋まる予定表	春秋心やまだ五月春の檻の中	鶏鳴に山羊が花へて山々大い	夕暮れは道草ばかり <small>此系 雲 茨 道</small>	朝刊の匂ひを纏 <small>まと</small> ひ風光る	亀鳴くや歩みゆるめて午後長し